

平成29年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

I. 交付金対象事業		種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input checked="" type="radio"/> 広域		
			<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input type="radio"/> 単独		
① 国への申請事業名	もうかる農林水産業の実現に向けた「とくしまブランド」戦略					
(広域連携自治体)	徳島県、小松島市、阿波市、那賀町、松茂町、北島町、板野町					
② 取組内容・目指す姿	本県の農林水産業を力強く成長させ、将来にわたり発展させ、将来を担う若い生産者が意欲を持って従事することができる産業へ発展させる。	担当課	産業振興課			
		事業期間	平成28年度～32年度			
II. 事業内容						
③ 本市における実施事業名	④ 事業概要					
6次産業化支援事業 総合戦略p17, 資料3 p18参照	・地元産品の開発補助および産直市などへの開発品の仕入れに繋げる。					
農林水産ブランドソフト事業 総合戦略p18, 資料3 p26参照	・本市特産の「はも」や「しいたけ」、「ちりめん」、「竹ちくわ」、「フィッシュカツ」などの知名度向上を図る。					
⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)						
年度	事業計画	実施結果			予算・実績・補助金	
平成28年度	・「こまつしまブランド戦略推進協議会」によるこまつしまブランド産品の海外展開、輸出支援	「とくしまブランド」の海外でのブランド力向上ならびに本県経済活性化の実現を図るため、こまつしまブランド戦略推進協議会が台湾において農林水産品の物販およびPR出展をした。			当初予算額	2,800,000 円
					実績額	983,880 円
					補助金額	491,940 円
平成29年度	・6次産業化に向けた商品開発等支援 ・「こまつしまブランド戦略推進協議会」によるこまつしまブランド産品の販路拡大、海外展開、輸出支援	6次産業化支援事業 3,000千円 農林ブランドソフト事業 1,004千円 水産ブランドソフト事業 3,500千円			当初予算額	7,504,000 円
					実績額	— 円
					補助金額	— 円
⑥ 重要業績評価指標(KPI)		単位	H28			<広域連携自治体全体でのKPI> ・とくしまブランド推進機構が関与した5年間の総販売額 (H28目標値) 1億円 ・農林水産物等輸出入金額の5年間の総増加額 (H28目標値) 3.3億円 ※県との広域事業であるため、本市のみの実績数については記載せず。
			基準値	目標値	実績値	
1	6次産業化商品件数	件	(H26) 1	3	3	
2	6次産業化取り組み件数	件	(H27) 6	9	12	
3						
⑦ 官民協働・自立性						
市と農協および漁協、商工会議所などで組織する「こまつしまブランド戦略推進協議会」を中心に本事業の推進を図っている。						

Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<ul style="list-style-type: none"> ・「ブランド」ということで進めているが、既存の商品だけではなく、新たな6次化の商品開発も進めていく必要がある。 ・6次産業についてはもっと進めていけるのではないか。現場に携わっている人から積極的にそれを進めていって、協議会内を活性化していく必要がある。 ・海外展開というのは、もともとの物価の差をどう埋めていくかが、非常に大きな課題。 ・海外にという気持ちは強く持っていく必要があると考えるが、どうやって事業展開していくかを、分野でいうと産の分野が知恵を出し合っていく必要がある。 ・海外への進出については、通関や検疫、そういったものをどうやってクリアするのか、きちんと調べていかないといけない。 	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない、との意見</p>

⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	B	「とくしまブランド」の輸出拡大によるもうかる農林水産業の実現を図る徳島県と連携し広域で事業を推進する。また、輸出に必要な資質向上のための検証を行い、輸出活動を支援するための体制整備を図る。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	台湾太平洋SOGOに出展し本市の製品のPR販売を行ったところ、興味を示す消費者も多く現地需要の把握ができた。また、文化等による食習慣の相違や円滑な輸出行為への課題点なども当地に行くことで直接感じることができた。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	B	海外展開を推進、活性化し海外でのブランド力向上を図ることは同時に国内でのブランド力の向上にもつながるものである。このことにより本県、本市が農林水産品の一大産地として地位を確立できることでもうかる農林水産業を実現できると考えられることから、継続して本事業を推進していく。

⑩ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）